

## 「都市問題講座」(全6巻)

都市問題は、今日世界中の都市の苦悩といってよい。われわれ自身にとっては、もはや生命にかかわる事態に至っている。こうした深刻な都市問題に対して各専門分野では目ざましい研究もなされており、雑誌、新聞、テレビなどを通じてその成果の一部が伝えられてきた。しかしながら、全体的にみて都市問題に関する研究がどのように進められ、どこまで進んでいるか、対策はどのようにたてられ、それがどのように計画され、さらにどこまで実行に着手されているかといった問題になると、研究体制がいかに貧弱だったといわねばならない。その原因の一つは専門分野、つまり学部とか講座のセクショナリズムの壁に阻まれていたからだともいえる。今度有斐閣から発刊された「都市問題講座」は上のようなセクショナリズムを排し、研究成果を総合的に把握することによって都市問題の全体的姿を明らかにし、有効な対策を導くための礎石を築こうとする点において画期的なものとなっている。

本講座は全六巻で、1 経済構造 2 住宅・土地・水 3 財政と行政 4 都市交通 5 社会環境 6 公害・災害となっており、編集は岩井弘融(社会学)、加藤一郎(法学)、柴田徳衛(財政学)、八十島義之助(工学)があたっている。

今回は、第4巻の「都市交通」が発刊された。

本書は、いまや「低下」の段階から「マヒ」の段階に突入している交通機能をいかに回復させるかについて、その全般にわたって検討を加え、大胆な問題提起を行なっている。都市交通の実態と分析も市民生活に視点をおいて体系化、計量化を図り、豊富な資料およびその方法論は横浜市の都市問題に対処するためにも大いに参考となろう。本書はおよそ交通に関連する全ての分野に論及し、第12章には心理学の立場からの分析を加えるなど総合的に把握しようとする意欲を十分に示している。内容は、都市と交通、都市における交通計画、新段階における鉄道交通、都市と自動車、都市交通の経営問題、交通過密化の日本の背景、都市と空港、都市と港湾、都市通信の近代化、交通事故からみた都市問題、都市交通の規制、都市交通と交通心理の12章にわたって論述されている。

なかでも、高速度鉄道の敷設、公営交通の経営、港湾管理運営の問題の論述は核心をついたすぐれたものである。そして、それぞれが都市問題としてもっている矛盾は、一時しのぎの対策ではいかんともなしがたい段階にきていることを強調し、その解決は単に交通体制のみの問題としてではなく、都市経営全体の視野から、これにあたるべきだという観点に立って都市交通政策の方向を打ち出している。

またこれまで交通対策といえば、産業基盤整備のみに重点おかれてきたため、市民生活は極度の混乱に陥っている。そのような交通政策のあり方を批判し、真に市民的な交通の実現のため、まず市民の立場から交通問題に取組もうとする姿勢がこの本を支える大きな柱となっている。このような意欲的な試みは日本ではじめてのもので、続刊が期待される場所である。(S)

< A 5判 900円 有斐閣 >

### あとがき

昨年、臨時行政調査会の行政改革に関する答申がだされた。その臨調が、アメリカのフーパー委員会をなぞっての意気込みから、骨ぬきにされていく経過、そしてだされた答申が、実施の段階でさらにさらばられていく経過をみても、行政の改革がいかに困難であるかをよく示している。このことは、大なり小なり市においても同様である。しかし、時のテンポの速さは、待ってくれてはいない。

いま本市は、マイクロ・コンピューターの導入をテコとして、ようやく近代化にのりだそうとしている。それが、たんなる技術の問題にとどまらず、市民を向いた行政の体質の改善の方向にすすむことを願わずにいられない。成田先生はじめ執筆者の皆さんに心から謝意を表します。 < N >

調査季報 ⑥

1965年2月27日

編集・発行 横浜市総務局調査室

横浜市中区港町1-1

印刷 有限会社 宮村印刷所

横浜市南区永楽町2-22